

○事業所名	アイビーキッズ越中島			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 6日		～	2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37人	(回答者数)	32人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 20日		～	2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的アプローチとチーム体制による一貫した質の高い療育実践	太田ステージ等のアセスメントツールや視覚的提示（個別スケジュール・見取り図等）を活用し、構造化された環境下で丁寧な個別・小集団支援を実施しています。 外部講師による専門研修の受講や本社からの巡回指導を定期的に受け、専門的知見に基づいた支援方法を組織的に実践しています。 支援開始前・終了後の打合せ（昼礼・終礼）および定例ケース会議を徹底し、お子様一人ひとりの状態や支援内容をチーム全体で確実に共有・検証しています。	保護者様との対話を重視し、より精度の高い専門的支援・プログラム作成を継続してまいります。 構造化や運動スケジュールの提示方法（個別ボードの活用等）を一層見直し、より分かりやすい環境構成に改善いたします。
2	保護者支援・座談会・ペアレントトレーニング等の多角的な家族支援	定期的なペアレント・トレーニング（火曜日実施等）や、保護者様同士が気軽に交流・相談できる座談会・就学相談会などを企画・実施しています。 卒園生との交流機会の確保や、事業所ビル内の保育園へのお迎え・園訪問など、地域や他機関との連携にも取り組んでいます。	保護者様が一人で悩みを抱え込まないように、共感的で話しやすい相談環境・交流機会を継続的に提供してまいります。
3	清潔な環境維持と個人情報保護・防災訓練等の徹底	毎日全員で掃除・衛生管理を行い、加湿器の導入や個人情報保護のための事務所ファイル棚の目隠し等、心地よく安心して過ごせる環境を作っています。 ビル全体の総合訓練と事業所独自の訓練の双方を実施し、防災・安全計画に基づいた訓練および釣具等での安全研修を行っています。	お子様の発達特性に応じた具体的な避難動線の確認や、誰が対応しても安全に誘導できる防災体制づくりを迅速に進めます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	面談後の支援反映・一貫性の伝達および「本人の現在の課題」に関する情報共有の不足	面談等で保護者様からいただいたご要望やご相談（家での動作アドバイス等）に対し、日々のフィードバックや支援の中で具体的な対応結果を伝えきれていない場面がありました。 出来たことの共有だけでなく、「本人の現在の課題」や支援方針の一貫性を保護者様が実感しづらいケースが見られました。	面談後の支援方針の変化や取り組み状況を日常のフィードバック時に明確にお伝えする運用へと改善します。 「今どんな課題に向き合い、どのようにアプローチしているか」を保護者様と私たちが同じ方向を向いて共有できるよう、納得感のある説明と合意形成に努めます。
2	教室内の細かな衛生・清掃チェックおよび構造化（登れる場所等）の安全管理	室内は新しく綺麗に保たれているものの、埃が溜まりやすい棚の上・四隅・遊具の隙間などの細部に対する清掃チェックが十分でないことがありました。 お子様が登ってしまう設備・場所があり、注意提示やクッション材のみでは完全に防ぎきれない場面がありました。	清掃チェックリストの運用を見直し、隙間や高所の衛生維持を強化・徹底いたします。 お子様が危険な行動をとらないよう、物理的な環境構造（登れないレイアウトや覆い等）の工夫と目視・カード提示による安全管理をより厳格化します。
3	事業所運営（振替・接遇等）に関する保護者様への丁寧なご案内と信頼回復	サービス内容の変更や振替案内等の際、保護者様に心理的なご負担や圧迫感を与えてしまうご説明となってしまうケースがありました。	保護者様のご意向・生活状況を第一に尊重し、お子様の療育機会を最善の形で確保するための真摯で丁寧な提案・接遇姿勢を、全スタッフに指導・徹底いたします。